

食品ロスを減らすため、できることから取り組んでみませんか？

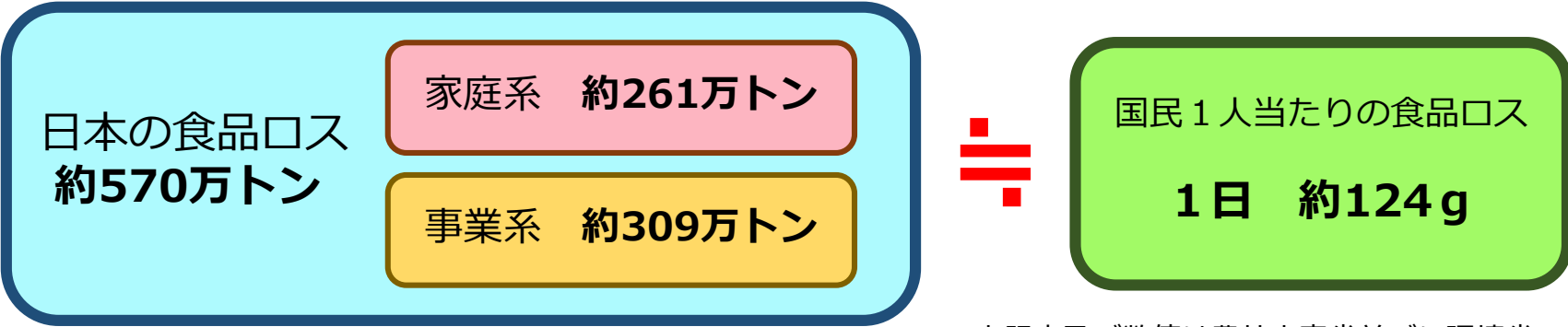
食品ロスとは、手つかずのまま捨てられている食品や食べ残しといった、無駄に捨てられている食品のことを言い、その量は、日本で年間約570万トンにも上り、そのうち、およそ261万トンが、家庭から発生しています。

食べ物を無駄なく大切に消費することが求められている中、食品ロスを減らすためには、皆さん一人ひとりが日々の行動を、例え少しずつでも変えていくことがポイントです。

では、私たちは食品ロスを減らすため、日々の生活の中で、どのような工夫ができるでしょうか？
家庭から発生する食品ロスを減らすためには、それぞれの原因ごとに、適切な対策を取り、日々の生活で気を付けなければなりません。

では、日々の生活でどのようなことに気を付ければよいのでしょうか？
実はそんなに難しいことではなく、日々のちょっとした工夫で食品ロスを減らすことができます。
皆さんも食品ロスを減らすために、次の表を参考にして、日々の生活の中からできることを始めてみましょう。

食品ロスの原因	日常生活でできる工夫
買いすぎ	買物に出かける前に冷蔵庫の中などの在庫を確認しましょう。 また、「安いから」という理由で安易に買いすぎる前に、食べきれるか確認しましょう。
長持ちしない保存方法	長期間保存する場合には、インターネットなどで適切な保存方法を検索してみましょう。食材が長持ちするだけでなく、美味しさの維持にもつながります。
レシピを知らなくて食材を調理しきれない	インターネットなどでレシピを検索してみましょう。
贈答品でもらった食べ物が好みでない	フードバンクなどへの寄附やお裾分けを検討してみましょう。 また、自分が贈る場合には相手の好みも踏まえて贈り物を選びましょう。
作りすぎ	食べられる分だけを作るようにしましょう。 また、食べきれなかったものは冷凍するなど、悪くなりにくいような保存方法を工夫してみましょう。
放置していて忘れていた	冷蔵庫の中などの配置方法を工夫してみましょう。



※ 上記表及び数値は農林水産省並びに環境省HPから抜粋

2022年4月から「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が施行されます



プラスチックをとりまく様々な環境問題に対応していくには、プラスチックの資源循環を加速し、循環型社会へ移行していくことが大切です。

プラスチックの資源循環は、プラスチックのライフサイクル全体において関わりがある、全ての事業者、自治体、消費者の皆さんによる様々な取組により実現します。

この法律はプラスチック製品の設計から排出・回収・リサイクルに至るまでプラスチックのライフサイクル全般に関わる事業者・自治体・消費者の皆さんで3 R+Renewable(再生プラスチック・再生可能資源等) の取組を促進していくことが求められています。

ごみゼロリーダーの皆さんには、この法律によってどのような世の中が変わっていくかをご理解いただき、日々の生活の中で、「プラスチックは、えらんで、減らして、リサイクル」に、積極的なご協力をお願いいたします。

4つのSNSで情報発信しています！

Twitter



Instagram



Facebook



LINE



お住まいの地域	担当の環境事業センター	電話番号	F A X 番号
北区・都島区・淀川区・東淀川区	東北環境事業センター	06-6323-3511	06-6370-3951
旭区・城東区・鶴見区	城北環境事業センター	06-6913-3960	06-6913-3674
福島区・此花区・西淀川区	西北環境事業センター	06-6477-1621	06-6477-4602
天王寺区・東住吉区	中部環境事業センター	06-6714-6411	06-6714-7787
中央区・浪速区	中部環境事業センター出張所	06-6567-0750	06-6567-0721
西区・港区・大正区	西部環境事業センター	06-6552-0901	06-6552-1130
東成区・生野区	東部環境事業センター	06-6751-5311	06-6753-3041
住之江区・住吉区	西南環境事業センター	06-6685-1271	06-6685-1282
阿倍野区・西成区	南部環境事業センター	06-6661-5450	06-6653-7849
平野区	東南環境事業センター	06-6700-1750	06-6706-2007

ごみゼロリーダーニュースは
大阪市ホームページでもご覧いただけます。

大阪市 ごみゼロリーダーニュース

検索

